

乙津豊彦市政報告

最後の報告です

勇退することになりました

前号(第23号)でご挨拶したとおり、今期をもって勇退することになりました。改めて今までに皆さまから賜りましたご厚情に感謝するとともに、後援会の役員に御礼申し上げます。

4月より西多摩地区保護司会福生分区長として更生保護に力を注ぐとともに、技術者としてソフトウェアの開発に復帰できればと考えていますが、技術の進歩が速いため12年間のブランクを取り戻せる自信もありません。家の会社に設置しているサーバーの御守り(おもり)や、趣味の域を出ないソフト開発から始めようと考えています。



10年表彰でいただいた記念の市議会議員バッジ

平成31年度予算

一般会計の予算額は、歳入歳出それぞれ250億8000万円と定められました。平成30年度に比べて6億8000万円、2.8%の増となり過去最大規模の予算となりますが、特別会計等を加えた総合計は375億6495万円となり、平成30年度に比べて9億350万円、2.5%の増となります。平成31年度より、下水道事業会計が企業会計に移行したため正確には比較はできませんが、増加傾向は否めません。

今回は予算の使い道を性質別に分け、市民一人当たりで計算し、さらに、10年前(平成21年度)の予算と比較してみました。下の図を見てください。これは私が独自に作成したもので、公式なものではありません。

市民一人当たりの扶助費が大幅に増加していますが少子高齢化の影響もあると考えます。また、普通建設事業費の増加は施設の老朽化による建替えや機能復旧工事が増えていることによります。










予算審査特別委員会より

本予算に対し、共産党派から予算組み替え動議が提出されました。福生市は毎年5〜15億の黒字

を計上しており、基金(貯金)も大幅に増えていることから財政調整基金を切り崩して学校給食費を無償化しようとするものです。福生市における給食食料費は年間1億8000万円になります。財政調整基金は経済事情の変動等による減収、災害により生じる予期せぬ支出・減収を埋めるときや、緊急性の高い大規模な建設事業の経費等に充てるために積み立てているものです。これを将来に渡って行う事業への原資とするのはいかなるものかと申し上げます。

もちろん、この動議は賛成者少数で否決され

平成31年度一般会計予算は委員会として可決されました。

扶助費 81億6,601万円 (生活保護、老人福祉、児童福祉などに支出される福祉的な経費)  市民1人 当たり: 14.0万円 (10年前: 8.9万円)	物件費 38億4,945万円 (消耗品や光熱水費など市の事務を行うために必要な経費など)  市民1人 当たり: 6.6万円 (10年前: 5.1万円)	人件費 38億2,987万円 (市長や市議会議員、市職員などに支払われる報酬、給料など)  市民1人 当たり: 6.6万円 (10年前: 6.9万円)
建設事業費 31億2,279万円 (道路、橋りょう、学校などの新増設の建設事業のための経費)  市民1人 当たり: 5.4万円 (10年前: 2.7万円)	操出金 28億5,063万円 (国民健康保険事業などの特別会計への繰り出し金)  市民1人 当たり: 4.9万円 (10年前: 2.9万円)	補助費等 23億2,160万円 (一部事務組合や各種団体などに支出される負担金や補助金など)  市民1人 当たり: 4.0万円 (10年前: 4.6万円)
公債費 7億6,449万円 (市債の元金・利子を償還するための経費)  市民1人 当たり: 1.3万円 (10年前: 2.1万円)	その他 1億7,516万円 (維持補修費、積立金、出資金・貸付金など)  市民1人 当たり: 0.3万円 (10年前: 0.4万円)	予算総額 250億8,000万円 (10年前: 203億5,400万円)  人口 58,243人 (10年前: 60,859人) いずれも1月1日現在